

聴覚障害者とのコミュニケーション方法

「口話」

口話は、ゆっくりした口の動きから話し言葉を理解し、伝えたいことを声に出して話すコミュニケーション方法です。しかし、「たばこ」「たまご」「なまこ」のように、口の形が似た単語があるので、読み取り間違いも多くあり万能ではありません。合わせて、手話や身振りを加えるとよりわかりやすく伝えることができます。口の形から話を読み取るには、集中力が必要であり、長時間の会話や多人数同士の会話には不向きなところもあります。



「筆談」

伝えたいことを紙に書いて伝えようコミュニケーション方法です。時間がかかってしまう面はありますが、口話と比べて情報の漏れや行き違いを減らすことができます。ただ、文章の意味を理解することが苦手な人もいますので、より簡潔な文章・イラストなどを活用しながら伝え合うのも1つの方法です。筆談には、何度も書いたり消したりできる磁気ボードを利用した「簡易筆談機器」もあります。



「手話」

手指の動きや表情で表現するコミュニケーション方法です。情報をタイムリーに伝えることができ、聴覚障害者も発言しやすく、多人数や長時間の会話・会議などにも適しています。気楽にコミュニケーションできる手段の1つであり、信頼関係や親密感が深まりやすいという聴覚障害者もいます。手話の習得に時間はかかりますが、まずは筆談や口話、手話を組み合わせながらコミュニケーションを図ることから始めるのもよいでしょう。



他にも様々なコミュニケーション方法があります・・・



聴覚障害者は皆、手話ができると思われがちですが、手話を習得していない聴覚障害者もいます。また、聴覚障害者の聞こえの程度や生い立ち、環境などによって、その人にあったコミュニケーション方法も異なってきます。どのようなコミュニケーション方法がよいのか本人に尋ね、確認することが大切です。